

循環型環境システム構築事業

概要

豊富な有機物資源(産業廃棄物等)を鉄触媒を用いた人工腐植化技術により循環資源として高度な利活用を図り、「循環型環境システム」の構築と農業や水産業のさらなる発達及び事業化による新たな地域活性化対策(コミュニティビジネスの展開と雇用機会の増大)を推進するものである。

(※北海道大学工学研究院・標津町・民間研究所との共同研究)

事業の内容

事業の内容

- 牛ふん、スラリー(牛ふん尿混合)、水産加工残渣、ヒトデ、家庭生ごみ、下水道汚泥を原料とした鉄触媒による人工腐植、堆肥化製造試験と成分分析
- ヒトデ、ホタテうろ、下水道汚泥等、重金属を含む原料の人工腐植処理後の重金属含量調査分析
- スラリーのガス発生抑制試験と成分分析

総事業費

10.5百万円

ポイント

- 鉄触媒による人工腐植化技術により、基幹産業と自然環境の変革
- 新たなコミュニティビジネスの展開

事業の成果

- ヒトデ、ホタテうろ等の重金属含量の減量による安全な利活用促進、肥料成分の凝集及び処理費の削減
- スラリーの硝酸態窒素が大幅に低減、また悪臭ガスの発生も著しく抑えられ環境と調和した酪農が確立
- 牛ふん堆肥の短期熟成が可能となり、化学肥料の削減と安定した肥力を持つ土づくりが可能となる。

北海道標津町

【人工腐植の処理例】



原料(ヒトデ)



人工腐植処理
(原料と資材を投入)



処理後